

女性の国会議員が増えるなかで、在職中に出産した3人目の「ママさん議員」が誕生した。昨年11月に女兒を出産した有村治子参院議員（33）＝自民党比例、滋賀県愛知川町出身＝だ。男社会の慣習が根強く残る国会で、現職議員が出産に踏み切るには、まだ課題も多い。男女共同参画社会基本法を成立させた国会自身が、議員の出産や子育てに寛容な仕組みを保証できるのだろうか。（東京支社・長尾康行）

# 国会在職中 出産3人目

# ママさん議員 子育てで奮闘



まな娘と過ごす有村参院議員。女性議員が活躍できる環境づくりは欠かせない(昨年12月)

「生まれてくれてありがとう。あなたに会えてうれしい。国会議員に「産休制度」もなかった。現職議員の出産は想定外だ。有村議員は今も初産の感激がさめない。「命を見届ける大変さを実感します。地元の選挙応援に入った際、多岐の選挙応援に入った際、地元の選挙応援に入った際、ある支持者から「大切な時に妊娠なんて。計画出産はできなかったのか」と非難された」と話す。

「生まれてくれてありがとう。あなたに会えてうれしい。国会議員に「産休制度」もなかった。現職議員の出産は想定外だ。有村議員は今も初産の感激がさめない。「命を見届ける大変さを実感します。地元の選挙応援に入った際、多岐の選挙応援に入った際、地元の選挙応援に入った際、ある支持者から「大切な時に妊娠なんて。計画出産はできなかったのか」と非難された」と話す。

## 男社会、無理解も多く

## 支援の仕組みを切望

わけて生まれてくる。女性を考えた社会になっていないと、水島議員は振り返る。日本の国会は、外国に比べると女性議員数はまだ少ない。本年度の男女共同参画白書で各国の女性議員（下院）の割合を見ると、日本は7・3%で百八十二カ国中、百三十二位だ。一位のスウェーデン（45・3%）との差は大きい。昨年十一月の衆院選後、女性の割合は7・08%（三十四人）に低下、参院も14・6%にすぎない。北欧では選挙の候補者名簿に女性を一定数割り当てるクォータ制度や産休中の議員の代理投票制度を設け、女性の声を国政に反映させる工夫をしている。しかし、日本の国会の動きは鈍い。橋本、水島両議員たちは〇一年五月、「出産を政治参画のハードルにしない」を合言葉に超党派の議員連盟「産休ネット」をつくり、国会職員



や傍聴者が利用できる託児所の設置などを求めた。しかし、今も具体的な成果は得られていない。スケート選手だった橋本議員は、練習で体に負担をかけ、出産をあきらめていた。「妊娠が分かった時、真剣に子どもを産みたいと思った」とい

「政治を志したくても出産を妨げと見え、あきらめる女性もいる。女性や若者が政治に積極的に携わるべきだ」と、橋本議員は出産と議員活動を両立できる仕組みづくりを切望する。母親になったばかりの有村議員は、「私たち当事者だけの問題にしないよう、多くの人に理解を広げることが大切」としたうえで「私を感じた育児のありのままの姿を伝えていきたい」と、子どもを持つ女性の普通の姿を国政の場で示していく考えだ。